

## 平成24年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

## 1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A)     特定共同研究(B)     特定共同研究(C)     一般共同研究  
 地震・火山噴火予知研究     研究集会     国際・学際共同研究 (D)  
 国際・学際研究集会 (E)     施設・実験装置・観測機器等の利用     データ・資料等の利用

## 2. 課題番号または共同利用コード      2012 - A - 01

## 3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文：地震発生予測のための地震活動評価手法の基盤構築英文：Development of infrastructure for earthquake forecast system based on statistical seismology

## 4. 研究代表者所属・氏名      東京大学地震研究所・鶴岡 弘

(地震研究所担当教員名)      東京大学地震研究所・鶴岡 弘

## 5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給

## 6. 研究内容 (コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入)

キーワード：キーワード：地震発生予測, プロスペクティブ, CSEP

1日予測テストクラスを677ラウンド, 3ヶ月予測テストクラスを4ラウンド, 1年予測テストクラスに対して2ラウンドの検証結果を得るとともに, 平成24年7月12-13日にかけて研究集会「地震活動の評価に基づく地震発生予測システム: 東北地方太平洋沖地震前後の地震発生予測」を開催した.

AllJapan テスト領域において, S-Test にパスしないモデルが多数得られたが, これは, 1つの bin に複数の地震が起こっていることが原因であることがわかった. 空間テストについては, S-Test にかわるマッチスコアにおける評価の検討も始めた. さらに, CSEP の consistency テストは, 積極的に地震活動予測モデルが観測を満たしているという評価ではなく, 「地震予測モデルの予測結果が観測を満たしていないとはいえない」という評価であることに今後注意していくことが改めてわかった.

7. 研究実績報告 (公表された成果のリスト\*<sup>1</sup>または2000~3000字の報告書)(\*<sup>1</sup>論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと)

Nanjo, K. Z., H. Tsuruoka, S. Yokoi, Y. Ogata, G. Falcone, N. Hirata, Y. Ishigaki, T. H. Jordan, K. Kasahara, K. Obara, D. Schorlemmer, K. Shiomi, and J. Zhuang, Predictability study on the aftershock sequence following the 2011 Off the Pacific Coast of Tohoku, Japan, earthquake: First results, *Geophys. J. Int.*, 191, 2, 653-658, 2012.

Hiroshi TSURUOKA, Kazuyoshi NANJO, Sayoko YOKOI, Naoshi HIRATA, Prospective Evaluation of the CSEP-Japan Earthquake Forecasts, AOGS2012, Resorts World Convention Centre, Singapore, August 17, 2012, 2012.

鶴岡 弘, 評価手法マッチスコアの提案, 日本地震学会 2012 年度秋季大会, 函館 (日本), 2012 年 10 月 16 日 ~ 19 日, 2012.